

世界史

日程	大問	出題分野・テーマ	難易度
2月7日	I	イスラーム史からの様々な問題	標準
	II	近世ヨーロッパ史からの様々な問題	標準
	III	台湾史を中心とした様々な問題	標準
2月8日	I	古代から近世における戦争に関わる様々な問題	標準
	II	近世・近代を中心としたアジア史からの様々な問題	標準
	III	イギリスとフランスにおける市民革命期からの出題	標準
2月9日	I	大航海時代からラテンアメリカ諸国の独立等のラテンアメリカ史からの様々な問題	標準
	II	民族・独立運動中心とした東南アジア史からの様々な問題	標準
	III	イギリス近世近代史・フランス近代史・イタリア近現代史からの様々な問題	標準

<出題傾向>

いずれの日程も、3つの大問と45の小問から構成されている。

設問形式については、4つの短文選択肢から正解を1つ選ぶ、「正誤文判定問題」の比重が高い。今年度は、正誤文判定問題の割合は2月7日が64.4%、2月8日が42.2%、2月9日が51.1%となっている。また、2月8日に年代配列問題2問が出題されているのが注目される。つづいて、知識確認のための事項・人物選択問題等が残りの大半を占める。

出題内容は政治史が中心であるが、文化史に関する出題も例年比較的多く、今年度は2月7日に6問、2月8日に4問、2月9日に2問程度出題された。地図問題も、2月8日に2問出題されている（東南アジア地域の地図、アカプルコ貿易の図）。今後も地図問題の出題には注意を要する。

出題地域・年代については、雑題形式が多用されるものの、東洋史・西洋史の出題割合は均衡していると言える。例年欧米史に関しては、古代から現代まで満遍なく出題される傾向にあるが、東洋史においては前近代の西アジア、インド、中国が要注意である。例年いずれの入試日程でも、問題Ⅲは概ね現代史から出題されているが、今年度はやや幅広く近代から現代にかけての出題であった。今後も現代史まで目を配る必要があるだろう。さらに特記すべきことだが、2月7日の問題Ⅲ「台湾の歴史」中の問15「2008年以降の台湾総統選挙の結果」が象徴しているように、世界の時事的話題からの出題もあるので、注意が必要だろう。

総括的に述べれば、あくまで標準レベルの問題が中心であり、難度を上げるため、いたづらに奇問・悪問を配るようなことはなされていない。短文が多用される正誤文判定問題については、詳細な事項・記述が出題される場合も少数ながら存在する。しかし全体的にみれば標準的な問題が中心であり、教科書の内容をしっかりと理解し、努力を重ねた受験生が、着実に高得点を獲得できるような入試問題となっている。

<学習対策>

【出題レベルについて】 標準レベルの問題が中心なので、まず教科書に記載されている基本的な事柄について、知識を確実に定着させることが重要である。世界史の基本的な流れをしっかりと把握することを意識しつつ、同時に現在の世界と日本の関わりといった視点ももちながら教科書を読み進めていこう。当然、歴史用語を覚えていくことも必要だが、その場合も、教科書の本文中に太字で記載されているような重要語句を優先的に覚えることが大切である。

【正誤文判定問題について】 正誤文判定問題にかかる比重は、受験日程によって若干のばらつきはあるものの、おおよそ全問題の半数程度を占める。ここで確実に得点できるかどうかは合格へのカギとなるため、十分な対策が求められる。まず教科書をひととおり読み、基本事項や史実の流れをしっかりとおさえておきたい。教科書の内容が習得できてさえいれば、多くの設問は十分に解答できるはずだ。特に、時代・地域・歴史的事象の組合せによって正誤を判断させるものが多いので、一つ一つの史実を切り離して勉強するのではなく、それらの因果関係を正確に理解しておくようにしたい。基本的な知識を十分に身につけた上で、選択肢の短文を正確に読み、誤りを発見する練習を積み重ねよう。時代・地域ごとにまとめられた正誤文判定問題集や、共通テストの過去問などを利用することも有効である。これらを利用すれば、正誤問題だけでなく、さまざまな形式の問題に対応することも可能になるはずだ。

【文化史について】 例年、文化史からの出題が比較的多い。したがって、文化史上の作者・作品・時代・内容などの組合せを確実に理解しておかなければならないだろう。

【年代・年号について】 年号そのものが問われる出題は少ないが、年代・年号配列の問題は出題されている。その時代の為政者と事件・政策などを結びつけ、歴史の流れや因果関係をつかむようにすることが大切である。日頃の勉強においても、出来事の順番や、同時代に異なる地域でどのようなことが起きていたのかを把握するように心がけたい。

【周辺史について】 内陸アジア史等、いわゆる周辺史も十分な注意が必要である。具体的には北方民族史、東南アジア史、ラテンアメリカ史、アフリカ史などにも目を配っておこう。

【現代史について】 過去の出題傾向からみて、現代史（第二次世界大戦後を含む）から出題されることが多いので要注意である。現代史は、学習する時期が遅くなりがちだということもあって、受験生の多くが苦手とする範囲であるため、得点に差がつきやすい。しかしながら、近年の受験世界史の傾向として現代史の出題は増えてきているため、現代史の学習をおろそかにしてはならない。教科書をしっかりと読み込み、できる限り多くの問題に触れることで苦手意識を払拭し、他の受験生に対して差をつけられるようになってほしい。また現代史にからめて、直近の世界の時事的話題にも日頃から気を配っておく必要がある。

入試直前には、過去問を実際の試験と同じように時間制限を設けて解答してみるとよい。そうすることで、本番での時間配分や解答のペースを把握することができる。間違えた箇所やよくわからなかった点については、その都度教科書に戻って確認することが大切である。こうした演習を地道に積み重ねることで、必ず合格を手に入れることができるはずだ。